**2022年7月24日　大井バプテスト教会　礼拝説教**

**説教題「食べて味わう」　コヘレトの言葉１章２〜６、３章２４～２５節　広木　愛**

**『コヘレトは言う。なんという空しさ／なんという空しさ、すべては空しい。 太陽の下、人は労苦するが／すべての労苦も何になろう。 一代過ぎればまた一代が起こり／永遠に耐えるのは大地。 日は昇り、日は沈み／あえぎ戻り、また昇る。 風は南に向かい北へ巡り、めぐり巡って吹き／風はただ巡りつつ、吹き続ける。』**

**『人間にとって最も良いのは、飲み食いし／自分の労苦によって魂を満足させること。しかしそれも、わたしの見たところでは／神の手からいただくもの。 自分で食べて、自分で味わえ。』　　　　　　コヘレトの言葉１章２〜６、３章２４～２５節**

　大井教会の５年間、いろんな言葉が心に残っていますが、その中で、「やったことはないけど、やってみます！」というAさんの言葉は、新しいことだらけの大井教会の５年間を支えてくれた言葉でもありました。

わたしにとって、この言葉は、コヘレトの言葉にも通じる響きがあるなぁと思っています。コヘレトの言葉は、知恵文学というジャンルに入れられています。つまり、この文書の中は、神様からの知恵に溢れた言葉が記されているということなのだろうと思いますが、読んでいると、人間の心の葛藤みたいなものも記されているように思います。旧約聖書の時代、神様との関係が、近しかったイスラエルの人たちでも、私たちが感じるような葛藤を持っていたのだということが、コヘレトの言葉から伝わっていきます。この世で生きることは、神様と共にいるとどれだけわかっていても、簡単なことではない・・、時代が変わっても、それは変わらないということなのだろうと思うのです。

コヘレトの言葉の出だしを読んでいくと、「コヘレトは言う。なんという空しさ、なんという空しさ、全ては空しい。」からこの言葉がはじまっています。コヘレトの言葉が生み出された時代の人たちは、ただすぎていく、空しさを感じる毎日に、なぜ、自分がこの時代を生きているのだろうか、その意味を見出していこうとしていたんだろうとなぁと思います。生きていく意味を、自分の中にだけに見つけるのではなく、神さまと生きることに見つけようとしているその姿が、コヘレトの言葉から見えてきます。神様に生きる意味を見出そうとするとき、それまで感じていた空しさから、意味のある毎日へと変えられていく・・ということなんだろうなぁと思わされます。この空しさ、調べてみると、この空しいという言葉には、空しいという言葉の派生から・・空虚、妄想、さぎ、無駄、無益、役に立たないそれに加えて「息」という意味があることがわかりました。神様が吹き入れてくださった息と、空しいものに繋がりがあることがわかり、生きるということと、人が感じる空しさは切っても切れないものなのだということ、改めて、示されました。

　生きることとつながっている「空しさ」の中にも、私たち人にとって、最も良いものは、２４節には、「飲み食いし、自分の労苦によって満足させること」それが、「神の手からいただくもの」だと語られています。アダムの時代、３：１９「お前は顏に汗をして・・」と書かれているように、神さまからいただいている労働によって私たち自身が満足させられること、それは、空しいことだけではなく、息をすること、生きることであり、それは最も良いものである・・ということなのだろうと思います。Aさんが初めてのことに向き合うときに大切にされている「できるかわからないけど、やったことないからやってみます」という言葉。神さまの手からいただくものが、これまで経験したことがないことだけど、神さまからいただいている働きならやってみよう！という、神さまへの献身の気持ちが伝ってくるなぁと思い、この言葉を聞くと、いつも励まされています。神さまがくださるもの、きっと良いものだと期待しながら、神さまからの働きを受け取っておられるのだろうと想像しています。神さまからいただくものは、受け取った私たち一人ひとりが、自分で、食べて、自分で味わう。そして、良いものがどう私たちにとって良いものなのかを伝えることしかできないのだと思います。

多くのキリスト教会で話題になっている信仰継承というテーマ。これも、取扱説明書のようにイエス様に従うってこういうことですよ、これを受け取りなさいとバトンを渡すことよりも、神さまからいただくものをどのように受け取り、どのように味わうのか・・受け取る方法、味わう姿を伝えていくことが大切なのかなぁと思います。わたしたちは同じ経験や、同じ感性を持っている人はいません。どう受け取り、どう味わうかも多様です。この数年間、いろんな総会で、これからの教会の伝道をどうするのか・・ということがたくさん語られてきました。大井教会が大切にしているバプテスト主義の中で、伝道をどうするのか、というテーマはとっても大切なテーマです。一人ひとり、信仰をいただいた物語は全く異なるもので、神さまをどのように伝えるのかということも、様々なイメージを持っておられるのだろうと思います。それぞれが経験して味わっている信仰者としての歩み。その経験を、だれかに伝え、それを聞いた人が、自分で味わってみたい！と思ってもらうってことが、伝道することなのだろうと思います。

新しい週も、神さまからいただくものを自分で食べて、自分で味わう一週間を共に過ごしてまいりましょう。